

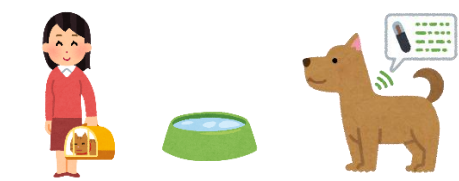
ペットの避難に関するガイドライン（飼い主用概要版）

1 避難可能なペット

家庭で飼育している動物(野良犬、野良猫、販売業者が飼育する動物は含まない)のうち、犬や猫、ハムスターや小鳥などの「小型の哺乳類及び鳥類」に限ります。

なお、屋内避難を行う場合、ペットはケージやキャリーバッグに入れる必要があります。

2 ペット用の避難用品や備蓄品の確保



災害時、避難するためには首輪や伸びないリード、ケージ、ペットフード、水、食器、トイレ用品などが必要になります。詳細は裏面をご確認ください。
また、普段から狂犬病などの各種ワクチンの接種をしましょう。

3 避難先の確保

ペット避難の受入れができる施設の一覧は右側の表を参照してください。

なお、災害時のペットのスペースとして、市の避難所だけでなく、親戚や知人宅なども預け先の選択肢として検討しておきましょう。

4 避難所での受付の流れ

同行避難が完了した後、指定避難所でのペット避難の受付の流れは次のようになります。

(1) 受付前の準備

避難所に到着した後、避難所で受付を行うにあたり、ペット同士の喧嘩などを防ぐため、ペットをすぐにケージやキャリーバッグ等に入れることのできる状態、または、入れた状態にしてください。



(2) ペット避難の受付

避難所受付窓口でご自身の避難者カード及びペット避難カード（ペット登録票）を記入し、避難所運営担当者に渡してください。飼い主とペットの受付場所が異なる場合は避難所運営担当者の指示に従ってください。（給餌などのペットの飼育は、基本的に全て飼い主が行うこととなります。ペットのみの避難の受付はできません。）

(3) ペット避難のルールの確認

各避難所におけるペット飼育のルールを確認してください。



(4) ペットの避難スペースへの移動

避難所運営担当者の指示にしたがって、ペットと避難スペースに移動しケージ等の設置を行ってください。



5 避難所ごとのルールに従ったペットの管理

- ①ペットの飼育、管理は飼い主が責任を持って行うこととなります。
- ②避難所でペットを飼育する際は、各避難所のペット飼育のルールを確認し遵守してください。
- ③人間と動物が共存できる避難所づくりにご協力ください。

6 ペット避難の受入れができる施設

No.	指定避難所名	所在地	屋外 (軒下等) 避難可能	屋内避難 可能	屋内避難 受入 可能頭数 (目安)	ペットの屋内避難場所	避難可能な災害の種類		
							洪水	津波 高潮	地震
1	昭和小学校	坂戸市場1431	○				○	○	○
2	市民会館 (昭和交流センター)	坂戸市場1566	○	○	90	①敷地内 市営球場ロッカールーム ②市民会館大ホール2階ホワイエ	○	○	○
3	奈良輪小学校	奈良輪425-1	○				避難不可	避難不可	○
4	袖ヶ浦高校	神納530	○				○	○	○
5	昭和中学校	神納3204	○				○	○	○
6	蔵波小学校	蔵波台4-19-1	○				○	○	○
7	蔵波中学校	蔵波2967-2	○				○	○	○
8	長浦小学校	長浦駅前6-1-4	○				○	○	○
9	長浦中学校	久保田129	○				○	○	○
10	臨海スポーツセンター	長浦1-57	○				○	避難不可	○
11	長浦交流センター (長浦公民館)	蔵波513-1	○	○	20	①敷地内 長浦おかのうえ図書館 1階 通路部分 ②交流センター2階 創作室	○	○	○
12	代宿公民館	代宿74-1	○				○	○	○
13	根形小学校	三ツ作761	○				○	○	○
14	根形中学校	三ツ作741	○				○	○	○
15	健康づくり支援セン ター	三ツ作1862-12	○				○	○	○
16	根形交流センター (根形公民館)	下新田1277	○	○	12	①敷地内 別館アトリエ	○	○	○
17	平岡小学校	野里1503	○				○	○	○
18	平岡交流センター (平岡公民館)	野里1563-1	○	○	10	①1階会議室 ②敷地内 車庫 ③敷地内 倉庫	○	○	○
19	平岡小学校幽谷分校	川原井470	○				○	○	○
20	平川交流センター (平川公民館)	横田115-1	○	○	22	①交流センター1階 風除室 ②交流センター2階 会議室(2)、相 談室	○	○	○
21	平川中学校	横田500	○				○	○	○
22	中川小学校	横田2583	○				○	○	○
23	中川幼稚園	横田2637	○				避難不可	○	○
24	平川交流センター 富岡サブセンター	吉野田622-2	○				○	○	○
25	平川保育所	三箇1965	○				○	○	○

※1 災害による施設の損傷状況などによって、ペット避難の受入れ場所を変更する場合や、避難の受入れができなくなる場合があります。

※2 「屋内避難受入れ可能頭数（目安）」の欄は、受入れ可能頭数を1㎡あたり1頭として、おおよその頭数を計算しています。

※3 被災状況や避難者の受入状況などにより受入可能頭数等は変動します。

※4 ペットの屋内避難スペースと同じフロアに避難者の受入れを行う場合、アレルギー対策の観点からペット避難所を開設しない場合があります。

ペット用の避難用品や備蓄品の例

1. ペットを避難させるために必要な避難用品の例

犬の場合	①首輪と伸びないリード（「鑑札」と「注射済票」も装着する）
	②扉のついたクレート（移動用の犬用キャリーバッグ）
	③ケージ（室内用）
	④犬用靴下やバンテージ（瓦礫などによる怪我を防止する）
猫の場合	①キャリーバッグやケージ（劣化で扉が開いたりしないもの）



2. ペット用の備蓄品と、持ち出す際の優先順位の例

優先順位 1 ペットの健康や命に関わるもの	①狂犬病などのワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬情報、検査結果、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報
	②療法食、薬
	③ペットフード、水（5日～7日以上）
	④キャリーバッグやケージ（避難時に欠かせないアイテム）
	⑤予備の首輪、伸びないリード
	⑥ペットシート（ケージの中の衛生用品、取替できるシート）
	⑦排泄物の処理用具
	⑧トイレ用品（可燃性の猫砂など）
	⑨餌入れ・水入れ
優先順位 2 情報（ペットの迷子対策など）	①飼い主の連絡先と、ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
	②ペットの写真（ペットの迷子対策）
優先順位 3 ペット用品	①タオル、ブラシ
	②ウェットタオルや清浄綿
	③ビニール袋（排泄物の処理など多用途に利用可能）
	④お気に入りのおもちゃなど、にいがついた用品
	⑤洗濯ネットなど（猫の場合、屋外診療・保護の際に有用）
	⑥ガムテープ・養生テープや記入用マジック（ケージの補修、段ボールを用いたハウス作り、動物情報の掲示、など多用途に使用可能）

3. 災害に備えたしつけと健康管理の例

犬の場合	①狂犬病予防接種に加え、各種ワクチンを接種する。
	②「待て」「おいで」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけを行う。
	③ケージなどの中に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく。
	④不必要に吠えないようにしつける。
	⑤人や他の動物を怖がったり攻撃的にならないように慣らしておく。
	⑥決められた場所で排泄ができるようにする。
	⑦犬フィラリアやノミダニなどの寄生虫の予防、駆除を行う。
	⑧シャンプーやトリミングにより身体を清潔に保つ。
	⑨不妊去勢措置を検討する。（感染症の防止など）
猫の場合	①各種ワクチン接種を行う。
	②ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく。
	③人や他の動物を怖がらないように慣らしておく。
	④決められた場所で排泄ができるようにする。
	⑤ノミダニなどの寄生虫の予防、駆除を行う。
	⑥不妊去勢措置を検討する。（感染症の防止など）
共通事項	①災害発生時には、ペットと離れ離れになってしまう場合もあるため、ペットが保護された際に飼い主の元に戻れるように、マイクロチップ等により所有者明示をする。

